

## 教師用指導資料「サイクルで進める組織的な取組」

本資料は、学校が組織として、学級（ホームルーム）集団の実態を適切に把握し、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の相互の関連を意識しながら一体的に取組を進め、さらに、PDCAサイクルによる取組の点検・見直し等を行っていく例を示した資料です。

教師用指導資料

# サイクルで進める組織的な取組

～子どもたち一人一人が大切にされ、安心して学ぶことができる集団づくりと授業づくりのために～

冬休みが終わり、最近、休みがちな子どもがいるんです。授業中の表情がすぐれない子どももいるので気になっています。



2組担任



学年主任

そうですね。私も気になっていたところです。

子どもたちにとって居心地のよい学級になるように、毎日一人一人に声をかけるようにしているのですが・・・。



先生が、休み時間や放課後に子どもたちと話している姿をよく見かけますよ。授業では、どのような工夫をしていますか？

私なりに考えて、例えば、話し合い活動の機会を増やし、また、子どもたちの意欲や努力の過程などを認めるようにしています。でも、効果が見られないので不安なんです。



話し合い活動が形だけになって  
いるのかなあ。



同じ子どもばかり  
認めている気がする  
なあ。

学校生活に対する子どもたちの意識を把握することで、他の取組が考えられるかもしれませんね。



子どもたちの意識ですか？



年間を通じて、定期的に子どもたちの意識を把握しながら、取組の点検や修正を行うことで、先生の取組がより効果的なものになると思いますよ。

他の担任の先生も交えて、学年全体で取り組んでみましょう。まずは、アンケート調査を実施しましょう。

3~4月

P 計画  
アンケート調査の実施

- ① アンケート調査を実施し、子どもの意識を把握します。

アンケート項目 (3月：学年集計)	1. 実施数				
	1	2	3	4	5
ア 授業が楽しい	40	36	10	14	
イ 先生が授業が面白い	50	37	5	8	
ウ 授業が面白くない	31	44	17	8	
エ 授業が面白くない	25	37	23	15	

約8割の子どもたちが「学校が楽しい」と感じていますね！

4割の子どもたちが授業がよくわからないと感じていることが気になりますか…

私の目からは、子どもたちは積極的に学習しているように見えますが、私と子どもたちの意識との間には、少し差があるように思えます。

授業がわかるようになれば、授業に楽しんで取り組む子どもたちが増えるのではないのでしょうか。

先生方は「授業がよくわかる」に満足したなかでは、「授業がよくわかる」の視点から取組を考えたいと思います。

ポイント

- 授業（実施を踏まえた）児童生徒の課題を設定します。
- 目標（授業を踏まえて児童生徒に期待する姿）を設定します。

4~7月

D 実行  
働きかけ・取組

- ② 課題を踏まえ、具体的な取組を検討・実施します。

勉強が苦手な子どもたちのことを考え、基礎的な内容を重視した授業がしたいです。

私も、そのように考えています。

私も同じです。勉強が苦手な子どもたちが興味をもつ資料を授業で活用します。

子どもたちの反応はどうですか。

勉強が苦手な子どもから「授業がわかりやすい」と言われました。

多くの子どもたちが、授業が面白くないと感じています。

一人一人の子どもたちはどのように感じているのが気になります。

アンケート調査を通して、子どもたちの意識を把握してみよう。

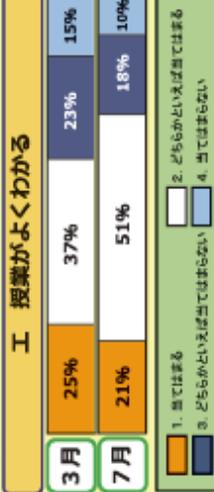
ポイント

- アンケート結果を踏まえて設定した課題や目標意識しながら取組を実施します。
- 取組を進める中で、取組の改善や修正を行うことも大切です。

8月

C 点検  
アンケート結果の分析・取組の見直し

- ③ 3月と7月のアンケート結果（子どもの意識）を比較し、これまでの取組を振り返ります。



7月は「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせた回答が、3月に比べて10%増えましたね。

でも、「当てはまる」の割合が減少していますよ。

子どもたちは「授業がわかりやすい」と言っていたんだけどなあ。

勉強が満足しないと感じていた子どもたちがいるのかもしれない。

基礎的な内容に関する説明が中心の授業になっていたのかもしれない。

一部の子どもたちではなく、全ての子どもたちに目を向ける必要があるかもしれませんね。取組を見直してみようか。

ポイント

- 「点検」は、客観的な指標（アンケート結果等、結果を振り返ること）ができ、比較可能なもの）を用いている。
- 「点検」は、児童生徒の評価ではなく、教師の取組の点検のために行うものと捉えることが大切です。

A/P 修正/計画  
目標や取組の修正・方向性の共有

- ④ 点検の結果を踏まえ、目標や取組を修正し、共通理解を図ります。

一人一人の子どもたちが満足感や達成感を味わえるような授業を展開してみます。

これからは、子どもたちが学び合う場面を設定した授業を取り入れていこうと思います。

子どもたちがお互いに意見を言い合うことができる場面を設定してみます。

そこで、それぞれの取組に加えて、共通した取組を実施することになりました。

- 子どもたちがお互いのよいところを認めたり、励ましたりできるように設定する。
- 子どもたちが安心して発言できるように、授業中の約束事を明確にする。
- グループ活動等において、一人一人の子どもにも役割を与え、一人一人の場を設定する。

先生方の共通の取組に基づいて取組を進めることで、効果が高まりますね。夏休み明け取組を進めよう。12月のアンケート結果を振り返りましょう。

ポイント

- 定期的に取組状況を共有し、客観的な指標の分析に基づいて、計画の修正等について検討します。
- 計画に基づいて、教職員がチームとなって取り組むことが大切です。

9~12月	12月	1~3月	3~4月
D	C	A/P	D C A/P



3月、7月、12月のアンケート結果（子どもの意識）を比較し、これまでの取組を振り返ります。



この後も、点検の結果を踏まえ、目標や取組を修正し、共通理解に基づき取組を進めます。



「当てはまる」の割合が増えました！  
授業中の発言が活発になり、学び合う姿が見られるようになりました。



「授業に進んで取り組んでいる」の項目も  
「当てはまる」の割合が増えました！



授業だけでなく、学級活動でも、お互いの意見をよく聞くようになりました。



10月の文化祭に向けた準備では、以前よりも、子どもたちが団結して取り組んでいるように感じました。



子どもたちの表情が明るくなり、安心して過ごしているように感じます。欠席する子どもも減ってきましたね。  
では、12月のアンケート結果を踏まえて、取組の点検・見直しをしましょう。



先生方、PDCAサイクルで取組を進めてきた成果が出てきましたね！  
この取組を通じて、一人一人の子どもたちに「自己有用感」が育まれ、また、それぞれの学級にお互いを大切にす雰囲気生まれたのでしょうか。  
この後も子どもたちの姿が楽しみです。

校長先生

本資料において、4人の先生方は「授業がよくわかる」に着目し、一部の子どもたちではなく、学年の全ての子どもたちを対象として、定期的に子どもたちの意識を把握したり、取組の改善を図ったりしながら、一人一人の子どもたちがもつ個性（よさや違い）を集団の中で生か合い伸ばし合うことなどを意識して取組を実践してきました。

このように、児童生徒の実態に即した働きかけを効果的に行うためには、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の相互の関連を図りながら意図的・計画的に取組を進めるとともに、実態把握や取組評価を適切に実施することが重要です。

また、日頃の児童生徒との触れ合いや対話等を通じて、一人一人の能力・適性、興味・関心に加え、悩みや不安等についてもきめ細かく把握するなどして、様々な側面から児童生徒理解を深めつつ、信頼関係を構築することが必要不可欠です。

本資料に示した事例を参考に、学級（ホームルーム）等の実態や児童生徒の発達の段階を踏まえ、必要に応じて具体的な取組を工夫するなど、各学校における取組の一層の充実に向け、本資料を活用してください。

【参考資料】

- 生徒指導リーフLeaf.18「「自律感情」？それとも「自己有用感」？」（平成27年3月 文部科学省国立教育政策研究所）
- 生徒指導リーフ増刊号Leaves.2「いじめのない学校づくり2」（平成26年6月 文部科学省国立教育政策研究所）
- 学業指導の充実～子どもが意欲的に取り組む授業づくりを通して～（平成26年3月 栃木県総合教育センター）
- 学業指導の充実に向けて～学業指導を全ての教職員が進めるために～（平成24年3月 栃木県教育委員会）
- 魅力ある学校づくり調査研究事例リーフレット（平成30年3月 小山市教育委員会、令和2年3月 真岡市教育委員会）

令和4（2022）年3月 栃木県教育委員会

令和3（2021）年度 児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ

サイクルで進める継続的な取組～子どもたち一人一人が大切にされ、安心して学ぶことができる集団づくりと授業づくりのために～

本解説資料は、学校がP(計画)、D(実行)、C(点検)、A(修正)のサイクルを通じて、取組の点検・見直し等を行う際のポイント等を掲載した資料です。



## 教師用指導資料「サイクルで進める組織的な取組」 (解説資料)

～子どもたち一人一人が大切にされ、安心して学ぶことができる  
集団づくりと授業づくりのために～

令和3年度 児童・生徒指導推進委員会  
〔事務局〕 栃木県教育委員会事務局  
学校安全課児童・生徒指導担当  
義務教育課指導担当  
高校教育課指導担当  
特別支援教育室特別支援教育担当



栃木県教育委員会

とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き、ともに切り拓くことのできる  
心豊かで、たくましい人を育てます



### 教師用指導資料「サイクルで進める組織的な取組」の作成の趣旨について

いじめをはじめとする問題行動や不登校等、児童・生徒指導上の諸課題は複雑化、多様化しており、特に不登校については、小・中学校及び義務教育学校における不登校児童生徒数が8年連続して増加傾向にあります。

このような状況を踏まえ、各学校では、一人一人の児童生徒の状況や、問題行動や不登校等の背景等に応じて、家庭や関係機関と連携しながら丁寧に指導を行うとともに、日頃から未然防止の取組も実施しているところです。

そこで、各学校における日頃の取組をより効果的なものとするためには、学校が組織として、一人一人の児童生徒理解及び学級(ホームルーム)集団の実態を適切に把握し、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の相互の関連を図りながら、児童生徒の実態に即して意図的・計画的に取組を進め、さらに、PDCAサイクルによる取組の点検・見直し等を行うことが重要であると考え、本資料を作成しました。

本資料が、各学校における「子どもたち一人一人が大切にされ、安心して学ぶことができる集団づくりと授業づくり」に向けた取組の一助となれば幸いです。



栃木県教育委員会

とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き、ともに切り拓くことのできる  
心豊かで、たくましい人を育てます



## 教師用指導資料「サイクルで進める組織的な取組」(解説資料)の活用について

教師用指導資料「サイクルで進める組織的な取組」(以下、リーフレット)では、各学校が実際に取組を進める際の参考となるよう、「2組担任」から「学年主任」への相談をきっかけに、3人の担任と学年主任の4人の教師が、P(計画)、D(実行)、C(点検)、A/P(修正/計画)のサイクルで取組を実施するという場面を設定し、具体的な取組内容を掲載しました。

この解説資料には、リーフレットの2～4ページに掲載した、P(計画)、D(実行)、C(点検)、A/P(修正/計画)のサイクルにおけるポイント等を掲載しましたので、各学校において、リーフレットの事例を参考に、学校の実情や児童生徒の実態等に応じた取組を計画、実践する際、校内研修等の機会に、本解説資料を全ての教職員や学年の教職員で共有するなどして活用してください。



栃木県教育委員会

とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き ともに切り拓くことのできる  
心豊かで たくましい人を育てます



## PDCAサイクルで進める取組について

リーフレットに掲載した事例では、3月から1年後の4月までの取組を示しましたが、その後の1年間においても取組を進めていると考えてください。

また、年間に3回(3月～8月、8月～12月、12月～3月)、PDCAサイクルで取組を行います。

- ① P(計画): アンケート調査による実態の把握、課題や目標の設定
- ② D(実行): 働きかけ・取組
- ③ C(点検): アンケート調査結果の分析、取組の見直し
- ④ A/P(修正/計画): 目標や取組の修正、方向性の共有
- ① D(実行): 働きかけ・取組



栃木県教育委員会

とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き ともに切り拓くことのできる  
心豊かで たくましい人を育てます



## P(計画): アンケート調査による実態の把握、課題や目標の設定

P(計画)では、アンケート調査を通じて、児童生徒の意識を把握します。

## Point 1

リーフレットでは、肯定的な回答が少なかった「授業がよくわかる」に着目しましたが、例えば、「みんなで何かをするのは楽しい」に着目し、さらに伸ばすことを目標とすることも可能です。

## Point 2

アンケート項目は、例の通り簡単なものでかまいません。同じ項目で繰り返し調査することで、児童生徒の意識の変化を把握することができます。

また、学校の実情に応じて設定することも可能です。

アンケート項目 (3月：学年集計)	1. 当てはまる 2. どちらかという当てはまる 3. どちらかという当てはまらない 4. 当てはまらない [%]			
	1	2	3	4
ア 学校が楽しい	40	36	10	14
イ みんなで何かをするのは楽しい	50	37	5	8
ウ 授業に進んで取り組んでいる	31	44	17	8
エ 授業がよくわかる	25	37	23	15

## Point 3

新たにアンケート調査を実施するのではなく、既存の「学校生活アンケート」等に項目を追加して実施することも可能です。



栃木県教育委員会

とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き ともに切り拓くことのできる  
心豊かで たくましい人を育てます



## D(実行): 働きかけ・取組

D(実行)では、アンケート調査結果を踏まえて設定した課題や目標を意識しながら、働きかけや取組を進めます。

勉強が苦手な子どもたちのことを考え、基礎的な内容を重視した授業がしたいです。



私も同じです。勉強が苦手な子どもたちが興味をもつ資料を授業で活用します。



## Point 1

学年会議等の機会を活用し、取組状況や児童生徒の様子等について情報交換を行い、取組の改善や修正の必要性等について検討します。

また、検討の結果、必要があると判断した場合には、取組の改善や修正を行うことが大切です。

一人一人の子どもたちはどのように感じているのか気になります。



栃木県教育委員会

とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き ともに切り拓くことのできる  
心豊かで たくましい人を育てます



## サイクル1

## C(点検):アンケート結果の分析、取組の見直し

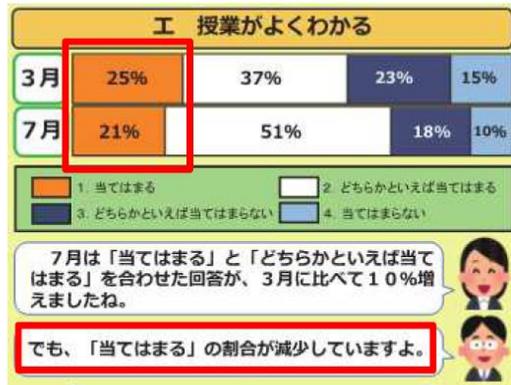
C(点検)では、アンケート調査を実施し、前回のアンケート結果との比較等を通じて、これまで実施した取組を振り返ります。

## Point 1

アンケート調査は、3月、7月、12月の3回実施します。それぞれ、春休み、夏休み、冬休みを活用し、前回のアンケート結果との比較等、取組の効果の検証等を行います。

## Point 2

アンケート結果を比較する際、「1 当てはまる」に焦点を当てます。そうすることで、例えば、「3 どちらかといえばあてはまらない」、「4 当てはまらない」と否定的な回答をした児童生徒だけではなく、「2 どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒も対象として、「1 当てはまる」と回答するようになるための働きかけを検討する視点が得られます。



栃木県教育委員会

とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き ともに切り拓くことのできる  
心豊かで たくましい人を育てます



## サイクル1

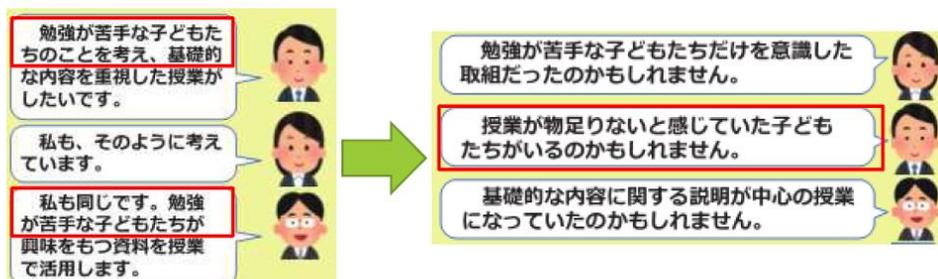
## C(点検):アンケート調査結果の分析、取組の見直し

## Point 3

アンケート結果から、これまで実施してきた取組を振り返り、話し合います。アンケート結果の比較による取組の点検は、児童生徒を評価するものではなく、教師の働きかけ・取組を点検するために行うものと捉えることが大切です。

## Point 4

「勉強が苦手な子どもたち」など、一部の児童生徒ではなく、全ての児童生徒に目を向けて取組を行うことが大切です。



栃木県教育委員会

とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き ともに切り拓くことのできる  
心豊かで たくましい人を育てます



## A/P(修正/計画):目標や取組の修正、方向性の共有

A/P(修正/計画)では、C(点検)の結果を踏まえ、目標や取組を修正したり、今後の方向性を共有したりします。

## Point 1

共通の取組を設定することで、教職員がチームとして取り組むことにつながります。

## Point 2

学年会議等の機会を活用し、共通の取組の実施状況や児童生徒の様子等について情報交換することで、教師同士または教師と児童生徒の感じ方の差などを把握したり、その修正について検討したりすることにつながります。

- 子どもたちがお互いのよいところを認めたり、励ましたりする場面を設定する。
- 子どもたちが安心して発言できるよう、授業中の約束事を明確にする。
- グループ活動等において、一人一人の子どもに役割を与えるとともに、活躍の場を設定する。



栃木県教育委員会

とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き ともに切り拓くことのできる  
心豊かで たくましい人を育てます



## D(実行):働きかけ・取組

2回目のサイクルにおけるD(実行)では、A/P(修正/計画)の結果を踏まえ、修正した目標や共通の取組等を意識しながら、働きかけや取組を進めます。

## Point

学年会議等の機会を活用し、取組状況や児童生徒の様子等に関する情報交換を通じて、取組の改善や修正の必要性等について検討します。

また、検討の結果、必要があると判断した場合には、取組の改善や修正を行うことが大切です。

- 子どもたちがお互いのよいところを認めたり、励ましたりする場面を設定する。
- 子どもたちが安心して発言できるよう、授業中の約束事を明確にする。
- グループ活動等において、一人一人の子どもに役割を与えるとともに、活躍の場を設定する。



栃木県教育委員会

とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き ともに切り拓くことのできる  
心豊かで たくましい人を育てます



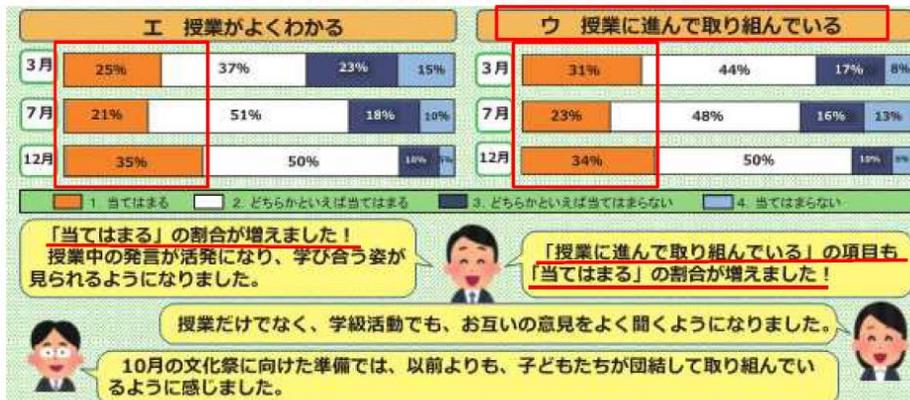
## サイクル2

## C(点検):アンケート調査結果の分析、取組の見直し

2回目のC(点検)では、アンケート調査(12月)を実施するとともに、3月、7月、12月のアンケート結果を比較し、これまで実施した取組を振り返ります。

## Point 1

「1 当てはまる」に焦点を当てて比較します。また、「授業がよくわかる」以外の項目の結果との比較も行い、前回のC(点検)と同様、児童生徒の様子やこれまで実施してきた取組を振り返り、話し合います。

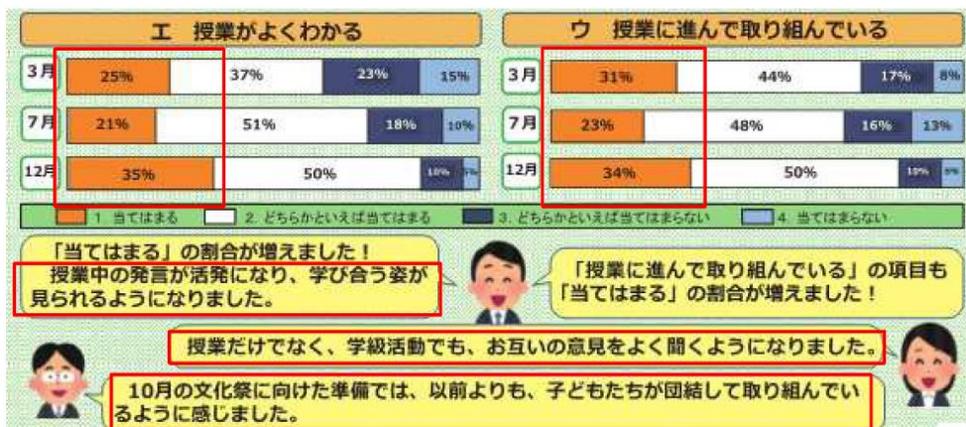


## サイクル2

## C(点検):アンケート調査結果の分析、取組の見直し

## Point 2

事例では、「エ 授業がよくわかる」、「ウ 授業に進んで取り組んでいる」の回答を取り上げましたが、取組を振り返る際、授業中の児童生徒の様子だけでなく、学校行事や学校生活での児童生徒の様子についても、情報交換することが大切です。



A/P(修正/計画):目標や取組の修正、方向性の共有

2回目のA/P(修正/計画)では、前回のC(点検)の結果を踏まえ、必要に応じて、目標や取組を修正し、共通理解に基づき取組を進めます。

Point

前回のC(点検)の結果を踏まえ、必要がある場合には、これまで実施してきた共通の取組等を変更します。学年会議等での意見交換を通じて、児童生徒の実態に即した取組を計画・実施することが大切です。

D(実行)⇒C(点検)⇒A/P(修正/計画)⇒D(実行)⇒・・・

このあとも、アンケート調査を通じて、児童生徒の意識を把握しながら、PDCAサイクルで取組を進めます。

Point

児童生徒に期待する姿、アンケート調査を通じて把握した児童生徒の意識、取組を通じた児童生徒の変容など、児童生徒を中心に据えて、定期的な意見交換や取組の点検等を実施することで、児童生徒の実態に即した取組につながります。

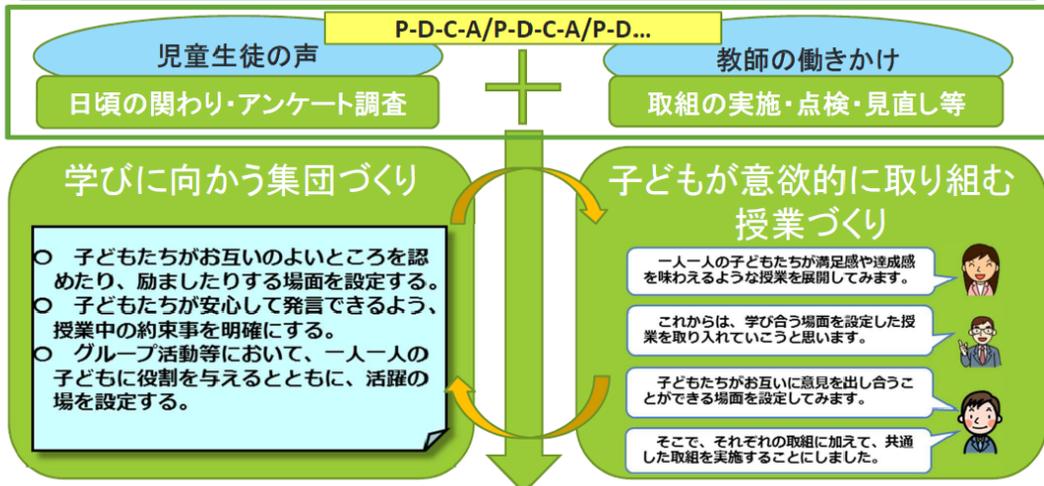


栃木県教育委員会

とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き ともに切り拓くことのできる  
心豊かで たくましい人を育てます



サイクルで進める組織的な取組



児童生徒の実態に即した効果的な取組

子どもたち一人一人が大切にされ、  
安心して学ぶことができる集団づくりと授業づくり



栃木県教育委員会

とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き ともに切り拓くことのできる  
心豊かで たくましい人を育てます



## 令和3(2021)年度 児童・生徒指導推進委員会 委員名簿

No.	氏名	所属・役職等	備考
1	藤平 敦	日本大学文理学部 教授	委員長
2	吉原 健一	栃木県総合教育センター研修部 指導主事	委員
3	小川 智	研究調査部 指導主事	委員
4	揖斐 俊博	教育相談部 指導主事	委員
5	高根沢 伸友	幼児教育部 副主幹	委員
6	野口 幹	河内教育事務所 指導主事	委員
7	秋元 啓介	上都賀教育事務所 指導主事	委員
8	渡辺 智則	芳賀教育事務所 指導主事	委員
9	青木 圭	下都賀教育事務所 指導主事	委員
10	柴田 哲朗	塩谷南那須教育事務所 指導主事	委員
11	屋代 聖之	那須教育事務所 指導主事	委員
12	塚越 道生	安足教育事務所 指導主事	委員

〔事務局〕 栃木県教育委員会事務局

○ 学校安全課児童・生徒指導担当

佐藤 俊宏(副主幹・GL)、高山 道長(指導主事)、神山 和泰(指導主事)、永利 英剛(指導主事)

○ 義務教育課指導担当 坂井 英史(副主幹) ○ 高校教育課指導担当 柏木 剛(副主幹)

○ 特別支援教育室特別支援教育担当 人首 健一(指導主事)



栃木県教育委員会

とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き ともに切り拓くことのできる  
心豊かで たくましい人を育てます



# 5 学業指導に関連する主な指導資料

- 児童生徒指導の指針 心豊かな栃木の子供を育てるために  
(平成12(2000)年9月栃木県教育委員会)
- 不登校の解消に向けた方策について  
(平成14(2002)年10月栃木県教育委員会 平成14年度児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ)
- 暴力行為を予防するための方策について  
(平成15(2003)年10月栃木県教育委員会 平成15年度児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ)
- 児童・生徒指導資料 児童・生徒指導の充実を目指して  
(平成15(2003)年11月栃木県教育委員会)
- 場に応じた適切な判断力を育てるための指導・援助の在り方  
-加害者にも被害者にもさせないために-  
(平成16(2004)年10月栃木県教育委員会 平成16年度児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ)
- 望ましい人間関係を構築する能力を育成するための指導・援助の在り方  
(平成18(2006)年3月栃木県教育委員会 平成17年度児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ)
- 学校に求められるこれからの児童・生徒指導  
-児童・生徒指導が機能する学校体制づくり-  
(平成20(2008)年3月栃木県教育委員会 平成18・19年度児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ)
- あなたは、学業指導を知っていますか!  
(平成21(2009)年1月栃木県教育委員会)
- 学校に求められるこれからの児童・生徒指導  
-発達課題の視点から見た児童・生徒指導の評価について-  
(平成22(2010)年3月栃木県教育委員会 平成20・21年度児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ)
- 生徒一人一人の適応感を高めるために  
-中途退学の未然防止に向けた中学校・高等学校の取組-  
(平成23(2011)年3月栃木県教育委員会)
- 学業指導の充実に向けて  
-学業指導を全ての教職員が進めるために-  
(平成24(2012)年3月栃木県教育委員会 平成23年度児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ)
- 「いじめ」の理解と対応 -いじめのない明るい学校を目指して-  
(平成24(2012)年12月栃木県教育委員会)
- 「学業指導」実践事例集(CD)  
(平成26(2014)年8月栃木県教育委員会 平成25年度児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ)
- サイクルで進める組織的な取組  
~子どもたち一人一人が大切にされ、安心して学ぶことができる集団づくりと授業づくりのために~  
(令和4(2022)年3月栃木県教育委員会 令和3年3月児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ)

## 6 主な参考文献

- 生徒指導資料第9集 中学校における学業指導に関する諸問題  
(昭和48(1973)年 文部省)
- 生徒指導研究資料第4集 高等学校における学業指導に関する諸問題  
(昭和48(1973)年 文部省)
- 生徒指導提要  
(平成22(2010)年3月 文部科学省)
- 学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)  
(平成26(2014)年6月 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター)
- 男女共同参画推進のためのワールド・カフェ実践手引き書(改訂版)  
(平成29(2017)年3月 文部科学省)
- 幼稚園教育要領  
(平成29(2017)年3月 文部科学省)
- 小学校学習指導要領  
(平成29(2017)年3月 文部科学省)
- 中学校学習指導要領  
(平成29(2017)年3月 文部科学省)
- 特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領  
(平成29(2017)年4月 文部科学省)
- 小学校学習指導要領解説 総則編、特別の教科 道徳編、特別活動編  
(平成29(2017)年7月 文部科学省)
- 中学校学習指導要領解説 総則編、特別の教科 道徳編、特別活動編  
(平成29(2017)年7月 文部科学省)
- 幼稚園教育要領解説  
(平成30(2018)年2月 文部科学省)
- 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説  
(平成30(2018)年3月 文部科学省)
- 高等学校学習指導要領  
(平成30(2018)年3月 文部科学省)
- 高等学校学習指導要領解説 総則編、特別活動編  
(平成30(2018)年7月 文部科学省)
- 「生徒指導提要の改訂に関する協力者会議」(第2回)ヒアリング資料  
(令和3(2021)年7月30日 文部科学省 生徒指導提要の改訂に関する協力者会議配付資料)
- 生徒指導提要  
(令和4(2022)年12月改訂 文部科学省)
- 学業指導の充実 ～子供が意欲的に取り組む授業づくりを通して～  
(平成26(2014)年3月 栃木県総合教育センター)
- 通常の学級における特別支援教育の実践事例  
～「安心感」と「わかりやすさ」を高める指導の工夫～  
(平成27(2015)年3月 栃木県教育委員会)

- 確かめよう学業指導 平成26年度「栃木の子どもの学級と学習に関する調査研究」報告概要  
(平成27(2015)年3月 栃木県総合教育センター)
- 通常の学級における特別支援教育「安心感を高める」指導・支援の充実  
(平成28(2016)年3月 栃木県教育委員会)
- 組織で取り組む学業指導 ～学業指導尺度の活用を通して～  
(平成28(2016)年3月 栃木県総合教育センター)
- 児童生徒への適切な指導のために ～ケース会議の進め方～  
(平成29(2017)年3月 栃木県総合教育センター)
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善【実践編】  
(平成31(2019)年3月 栃木県総合教育センター)
- 就学前から学校卒業後にわたる一貫した支援のために  
～「個別の教育支援計画」の作成と活用～  
(令和2(2020)年6月 栃木県教育委員会)
- 保護者とのよりよい連携のためのヒント ～共に子どもを育む～  
(令和3(2021)年3月 栃木県総合教育センター)
- 人権教育指導資料 直接的指導の充実を図るための基底的指導について  
(令和5(2023)年3月 栃木県教育委員会)
- 資質・能力の育成を図る授業づくり ～単元の見通しとICTの活用の視点から～  
(令和5(2023)年3月 栃木県総合教育センター)
- 教科における探究的な学習の充実(実践編)  
(令和6(2024)年1月 栃木県総合教育センター)
- 資質・能力の育成を図る授業づくり ～単元(題材)の見通しとICTの活用の視点から～  
(令和6(2024)年3月 栃木県総合教育センター)
- 人権教育推進の手引  
(令和6(2024)年4月 栃木県教育委員会)
- 学業指導とは  
(平成25(2013)年11月 中等教育資料(学事出版) 平成25年12月号 須藤 稔)
- 伝統的な学校組織文化の再考と新たな生徒指導  
(令和元(2019)年11月 須藤 稔 「シリーズ生徒指導研究のフロンティアⅠ 新しい時代の生徒指導を展望する」森田洋司・山下一夫・徳久治彦(編著)(学事出版) 第2章Ⅱ(51～63ページ))
- 人格の形成と学業指導(生徒指導)ー特別活動の特質の継承ー  
(令和4(2022)年3月 日本特別活動学会紀要30巻 特集論文Ⅰ 須藤 稔)
- 日米比較を通して考えるこれからの生徒指導  
(令和3(2021)年3月 片山 紀子・藤平 敦・宮古 紀宏)
- 子どもが輝くクラスになる事例50 学級づくり・授業づくり・関係づくり  
(令和6(2024)年8月 藤平 敦)
- 「学業指導」を御存じですか?  
(令和6(2024)年8月独立行政法人教職員支援機構メールマガジン第235号 講師コラム 藤平 敦)

# 7 児童・生徒指導推進委員会委員

## ○ 令和6年度

No.	所属等		氏名
1	委員長	日本大学文理学部 教授	藤平 敦
2	委員	総合教育センター研修部 指導主事	藤田 知史
3	委員	総合教育センター研究調査部 副主幹	小川 智
4	委員	総合教育センター教育相談部 副主幹	仁藤 裕子
5	委員	総合教育センター幼児教育部 指導主事	大坪 孝弘
6	委員	河内教育事務所 副主幹	野口 幹
7	委員	上都賀教育事務所 指導主事	諸橋 貴史
8	委員	芳賀教育事務所 副主幹	渡辺 智則
9	委員	下都賀教育事務所 指導主事	大塚 亮太
10	委員	塩谷南那須教育事務所 指導主事	柴田 哲朗
11	委員	那須教育事務所 副主幹	矢口 晃之
12	委員	安足教育事務所 指導主事	長ヶ部 亮
13	事務局	学校安全課 児童・生徒指導担当 課長補佐(GL)	佐藤 俊宏
14	事務局	// 副主幹	栗原 英男
15	事務局	// 指導主事	宮田 淳
16	事務局	// 指導主事	比田 嘉隆
17	事務局	// 指導主事	植田 智英
18	事務局	義務教育課 指導担当 副主幹	小堀 美佐子
19	事務局	高校教育課 指導担当 指導主事	藤澤 暢恒
20	事務局	特別支援教育課 指導主事	佐藤 由佳

## ○ 令和5年度

No.	所属等		氏名
1	委員長	日本大学文理学部 教授	藤平 敦
2	委員	総合教育センター研修部 指導主事	吉原 健一
3	委員	総合教育センター研究調査部 副主幹	小川 智
4	委員	総合教育センター教育相談部 指導主事	仁藤 裕子
5	委員	総合教育センター幼児教育部 副主幹	高根沢 伸友
6	委員	河内教育事務所 副主幹	野口 幹
7	委員	上都賀教育事務所 副主幹	秋元 啓介
8	委員	芳賀教育事務所 副主幹	渡辺 智則
9	委員	下都賀教育事務所 副主幹	青木 圭
10	委員	塩谷南那須教育事務所 指導主事	柴田 哲朗
11	委員	那須教育事務所 副主幹	佐藤 陽介
12	委員	安足教育事務所 副主幹	塚越 道生
13	事務局	学校安全課 児童・生徒指導担当 副主幹(GL)	佐藤 俊宏
14	事務局	// 指導主事	神山 和泰
15	事務局	// 指導主事	宮田 淳
16	事務局	// 指導主事	比田 嘉隆
17	事務局	義務教育課 指導担当 副主幹	小堀 美佐子
18	事務局	高校教育課 指導担当 指導主事	日下田 圭祐
19	事務局	特別支援教育課 指導主事	齋藤 佳紀

## ○ 令和4年度

No.	所属等		氏名
1	委員長	日本大学文理学部 教授	藤平 敦
2	委員	総合教育センター研修部 指導主事	吉原 健一
3	委員	総合教育センター研究調査部 副主幹	小川 智
4	委員	総合教育センター教育相談部 指導主事	仁藤 裕子
5	委員	総合教育センター幼児教育部 副主幹	高根沢 伸友
6	委員	河内教育事務所 指導主事	野口 幹
7	委員	上都賀教育事務所 指導主事	秋元 啓介
8	委員	芳賀教育事務所 副主幹	渡辺 智則
9	委員	下都賀教育事務所 指導主事	青木 圭
10	委員	塩谷南那須教育事務所 指導主事	柴田 哲朗
11	委員	那須教育事務所 指導主事	佐藤 陽介
12	委員	安足教育事務所 副主幹	塚越 道生
13	事務局	学校安全課 児童・生徒指導担当 副主幹(GL)	佐藤 俊宏
14	事務局	// 指導主事	神山 和泰
15	事務局	// 指導主事	比田 嘉隆
16	事務局	// 指導主事	永利 英剛
17	事務局	義務教育課 指導担当 副主幹	吉田 元保
18	事務局	高校教育課 指導担当 副主幹	吉川 知宏
19	事務局	特別支援教育室 指導主事	齋藤 琢磨

## 「学業指導の充実に向けて」（改訂版）

—子どもたち一人一人が大切にされ、安心して学ぶことができる学校を目指して—

令和7（2025）年3月 栃木県教育委員会

（令和4・5・6年度 児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ）

